

現在までに、京阪神圏の各 MSM 向け商業施設集積エリア（大阪府大阪市北区堂山町〈堂山〉、浪速区難波〈ミナミ〉、恵美須東〈新世界〉、兵庫県、京都府）の MSM 向け商業施設数と、当該エリアに流入する一日あたりの MSM 人口、及び推定される母集団の規模が判明している。また 2007 年に、大阪地域の MSM 向け商業施設利用者を対象としてアンケート調査を実施し、人口流動を推定する上での基本的データを得た。本研究はこれらの情報を基に、京阪神圏での MSM の人口流動の実体を推定するものである。

#### （結果）

平成 17 年国勢調査データを基に推定された MSM 人口（15 歳以上男性人口の 4%）は大阪府で約 15 万人、兵庫県で約 9 万人、京都府で約 4 万人である。一方で、MSM 向け商業施設数は、大阪府で 300 ヶ所を上回るのに対し、兵庫県で 20 ヶ所程度、京都府で 20 ヶ所程度であり差が大きく、県外への流出が想定される。一方で、2007 年に大阪地域のパー顧客対象の質問紙調査（1079 件の有効回答、回答率は 62.5%）を実施し、堂山地域来訪者の 26.5% が県外からの来訪者であるとの結果を得た。県外からの来訪者数はミナミで 17.6%、新世界で 17.3% となっている。内訳は兵庫県が最多であった。（堂山）〈ミナミ〉〈新世界〉の相互流入の状況としては、堂山利用者の 32.9% がミナミを訪れ、13.8% が新世界を訪れている。また、ミナミ利用者の 79.2% が堂山を利用し、29.2% が新世界を利用している。また、新世界利用者の 74% が堂山を利用し、64.7% がミナミを利用している。3 ヶ所とも利用者は堂山利用者で 10.4%、ミナミ利用者で 23.2%、新世界利用者で 51.4% であった。

#### （結論）

大阪地域では、〈堂山〉〈ミナミ〉〈新世界〉の中で堂山地域への県外からの流入が最も多

く、マクロな人口流動が顕著である。一方、大阪地域内での人口流動では堂山からの流出は少なく、ミナミ、新世界から堂山への流入が顕著である。大阪地域の MSM 向け商業施設集積エリアの中で、堂山地域が核としての役割を果たしていることが明らかとなった。

3 地域の、重なりを除いた「商業施設利用 MSM の母集団（実数）」は約 33,000 人と推定された（図 1）。

【図 1】



#### D. 考察

年度初頭に掲げた研究計画の項目にそって、研究事業の実施状況を総括する。

プログラム関連の事業継続	・ドロップインセンターdista	ほぼ計画通りに執行されたが、利用者の増加は前年度に比べ1割弱増にとどまった 相談業務に進展がみられた
	・コミュニティペーパーSal+の事業継続	計画通りに執行されたが、中高年向けの情報発信媒体の創出が望まれた
	・若年層のネットワーク育成Stepの事業継続	計画通りに執行された
	・STI 勉強会 Café Chat の事業継続	前年度獲得されたレベルが質・量ともに維持された
	・ハッテン場プロジェクト	ハッテン場の利用状況を調査した。またオーナーへのヒアリングを執行中である。調査結果に基づき、ポスター配布、コンドーム配布等の介入プログラムデザインに取り組み中
アウトリーチ関連	・新たな商業施設との連携	新世界地区での新規開拓が課題として残った
アドボカシー関連の事業継続	・行政との協働事業の展開	地方自治体（大阪府・大阪市・京都府）との連携が順調に推移
	・CBO との連携事業の展開	薬物依存関連 CBO、野宿者向け結核予防関連 CBO との連携が進展した
研究関連	・プログラムの効果評価	2006 年度に引き続きクラブ調査が実施された
	・ニーズアセスメント	ミナミ地区、新世界地区利用者層の移動に関する調査が実施された
学会等での情報発信	日本エイズ学会	演題発表（1題）を行った MSM 関連シンポジウムを企画・運営した

## E. 結論

1. プログラムはおおむね計画通りに継続された。コミュニティペーパーは中高年層の新たなニーズに応えることが望まれ、STI 勉強会は次の展開を狙う位置にある。ドロップインセンターでは相談業務に進展がみられた。
2. ハッテン場への予防介入プログラムに大幅な進展がみられた。来年度に向けて進捗が期待される。
3. クラブ調査の結果、MASH 大阪の認知、関連知識、検査行動、予防行動のいずれも上昇傾向にあることが分かった。特に受検率は 2006 年度の 37% から 45% に大幅に向上した。コンドーム使用率は上昇傾向にあるが、プログラムとの接触による影響は直接的には示唆されなかった。
4. 大阪地域 MSM の人口流動に関する研究が実施され、近畿圏の MSM の移動において堂山が移動の結節点になっている状況が明らかになった。

## F. 発表論文等

（論文発表）

- 1) 市川誠一、木村博和、鬼塚哲郎、松原新、佐藤未光、井戸田一朗：MASH による啓発活動，総合臨床，50：2805-2810，2001
- 2) 鬼塚哲郎：ゲイコミュニティへの予防介入事業，その現状と課題，日本エイズ学会誌，第6巻，第3号：141-144，2004
- 3) 鬼塚哲郎、辻宏幸：MASH 大阪によるゲイコミュニティ向け HIV/STI 予防活動，保健師ジャーナル，第61巻，第2号：184-188，2005
- 4) 市川誠一、張由紀夫、佐藤未光：MSM コミュニティにおけるコミュニティセンターaktaの役割と活動，保健医療科学，2007，56巻3号，230-234
- 5) 金子典代、市川誠一、辻宏幸、後藤大輔、塩野徳史、鬼塚哲郎：健康教育ツールを開発しよう、計画②ツールを使えるものにするための最後の押さえどころ-MASH大阪による健康教育資材の紹介，保健師ジャーナル，2007，63巻12号，1142-1149
- 6) 金子典代、市川誠一、辻宏幸、鬼塚哲郎：健康教育ツールを開発しよう、計画③対象

者にひびくメッセージをつくろう、保健師  
ジャーナル, 2008, 64 巻 1 号, 82-89

鬼塚哲郎、山田創平: 感染に脆弱な集団に  
どう予防介入するか〜マイノリティ集団  
における一次予防、二次予防、三次予防  
のあり方を検証する, 治療学,  
vol. 42-no. 5, 2008

【表1：2008年度配布実績】

期間	配布された施設 (昨年度の数值)	送付団体・個人 (昨年度の数值)	配布された部数 (昨年度の数值)	配布スタッフ延べ数 (昨年度の数值)
2008年4月	195店舗(192店舗)	33団体(26団体)	6733部(6697部)	23名(26名)
2008年5月	195店舗(192店舗)	32団体(26団体)	6808部(6537部)	20名(24名)
2008年6月	189店舗(186店舗)	34団体(26団体)	6893部(6642部)	22名(25名)
2008年7月	190店舗(186店舗)	35団体(27団体)	6720部(6597部)	17名(12名)
2008年8月	192店舗(185店舗)	35団体(27団体)	7770部(6447部)	20名(14名)
2008年9月	192店舗(183店舗)	36団体(27団体)	7760部(6242部)	37名(25名)
2008年10月	190店舗(185店舗)	35団体(29団体)	6680部(6223部)	18名(23名)
2008年11月	191店舗(187店舗)	36団体(31団体)	6620部(6572部)	18名(17名)
2008年12月	190店舗(190店舗)	37団体(30団体)	6595部(6567部)	7名(24名)
2009年1月	190店舗(190店舗)	37団体(30団体)	6593部(6507部)	19名(21名)
2008年4月～ 2009年1月	月平均 192 店舗	月平均 35 団体	合計 67172 部 (月平均 6717 部)	合計 201 名 (月平均 20 名)

【表2: Cafe Chat プログラム実施状況】

開催日	プログラム	参加者数 (新規参加者)	内容
2008年 3月	・「HIVについて」	32名 (8名)	distaで開催中のequal partner projectの展覧会「+ = ○」とカフェイベントを融合させ、来場者との対話を行った。また、内容や感想についてアンケートを行った。
4月	・「春物☆セックスワードロブ」	32名 (22名)	カフェスタイルで実施。ゲイライフやSEX、STIにまつわるキーワードを記載した単語カードを作成し、会場に配置した。それらの中から3ワードを選択してもらい(内STIカードは必ず1つ以上は選択)その単語についての説明を用紙に記述し、それをもとに対話を行った。使用資材◆単語カード、記述用紙
5月	・「聞かせて!ゲイ初体験記!」 ・STI勉強会 「検査について」	11名 (7名)	イベント、メディア、初恋、セックス、堂山(ゲイタウン)、ゲイ友と記載したサイコロを振ってもらい、出た目のキーワードをもとにプレゼンしてもらった。使用資材◆サイコロ、STI勉強会◆検査場と検査内容について等解説。質問コーナーを設けて解説を行った。
6月	・「男のカラダ」 ・STI勉強会 「HIV/AIDSのこと」	7名 (1名)	自分の体(理想とする体、現状など)とイケル体について、身体の部位別に得点付けして、レーダーチャートに記載してもらった。点数のつけ方や、身体についての考えをメインに対話を行った。使用資材◆レーダーチャート用紙、STI勉強会◆equal partner project制作の冊子から文章を抜粋し、それを基に対話を行った。
7月	・「Safer Sex」	9名 (4名)	5W1Hをもとにイケル男とSafer Sexをするといった前提を設け、どんな行為をするのかを紙に記述し、それをもとに意見交換を行った。自分にとってのSafer Sexについて考える機会を促した。使用資材◆5W1H記述用紙。記述された内容はPLuS+の展覧会で使用した。
8月	・「イっちゃう肌×肌」 ・STI勉強会 「How about you ~SEX編~」	6名 (1名)	身体部位を記載したカードを作成し、それを基にTPOに応じたスキンシップについて意見交換を行った。使用資材◆身体部位カード、STI勉強会◆あなたならこういう時どうする?という設問でSEX時に想定される状況に対し、どのように対処するかを意見交換した。
9月	・「ウケ to タチ & タチ to ウケ」	13名 (6名)	ウケ・タチ・リバそれぞれの立場からの考えや経験などをもとに意見交換を行った。相手に求めること、冷めること、自分や相手に求めるSafer Sexに対する態度などについてを共有した。使用資材◆記入シート。
10月	PLuS+2008 展示 パビリオン 「Safer Sex??」	294名 (来場者のべ)	Safer Sexから連想される言葉を書いてもらった紙を展示した。来場者がそれをもとに意見交換する姿が見受けられた。また来場者にも連想される言葉を書いてもらいそれを展示した。
11月	・「秋にイっちゃう!デート」	5名 (1名)	デートでの実体験や理想のデートについてをフローチャート用紙に記入し、意見交換を行った。その際に必ずSEXをするという前提条件を設け、その中にSafer Sexをする場合についても意見として盛り込んでもらった。使用資材◆フローチャート記入用紙
12月	・「SEXプロセス」	6名 (3名)	SEXのプレイの流れについてフローチャートに記入し意見交換を行い、自身のSEXを振り返る機会とした。その中でSafer Sexとして工夫できるプレイに触れ、それぞれの価値観を共有した。使用資材◆フローチャート記入用紙
1月	・「ゲイ春!セックスカルタ会」	8名 (2名)	ゲイのセックスや恋愛に関する歌をカルタにし、参加者で取り合うゲームを行った。歌に盛り込まれているセックスやSTIのネタをもとに解説や意見交換を行った。
2月	・「SEXクエスチョン」	7名 (2名)	セックスに関する疑問や質問をその場で募り、参加者でそれについて相談するという企画。事前インタビューで得た疑問についても触れた。

【表3：dista 利用状況-2008年度】

期間	業務/貸出 利用者	イベント来場者 (うち初来場者)	ふらっと来た人 (うち初来場者)	相談・情報入手 (うち初来場者)	合計 (うち初来場者)	稼働時間
2008年 4月	61名	173名(35名)	380名(27名)	4名(2名)	618名(64名)	155.0時間
5月	132名	275名(24名)	489名(36名)	11名(3名)	907名(63名)	210.0時間
6月	146名	198名(35名)	426名(31名)	3名(2名)	773名(68名)	180.5時間
7月	97名	157名(39名)	559名(47名)	5名(0名)	818名(86名)	203.0時間
8月	115名	131名(6名)	684名(80名)	1名(1名)	931名(87名)	203.0時間
9月	128名	114名(11名)	508名(58名)	5名(5名)	755名(74名)	199.0時間
10月	280名	372名(98名)	520名(61名)	0名(0名)	1172名(159名)	207.0時間
11月	111名	195名(40名)	525名(45名)	4名(3名)	835名(88名)	199.0時間
12月	88名	205名(34名)	468名(15名)	2名(2名)	763名(51名)	184.0時間
1月	54名	159名(24名)	424名(36名)	2名(0名)	639名(60名)	162.0時間
2月	名	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	時間
3月	名	名(名)	名(名)	名(名)	名(名)	時間
年度合計	1212名	1979名(346名)	4983名(436名)	37名(18名)	8211名(800名)	1902.5時間
月平均	121.2名	197.9名(34.6名)	498.3名(43.6名)	3.7名(1.8名)	821.1名(80.0名)	190.25時間

【表4：利用者数年度別推移】

年度	合計	月平均
2003年度(平成15年度)	3436人	286.3人
2004年度(平成16年度)	5910人	492.5人
2005年度(平成17年度)	6187人	515.5人
2006年度(平成18年度)	8402人	700.2人
2007年度(平成19年度)	9377人	781.4人
2008年度(平成20年度) 12月末現在	7573人	841.4人

【表5：カフェイベントの実施状況】

◆カフェイベント◆	頻度・会期		平均参加者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	参加者合計
東方曼男(中国茶カフェ)	隔月1回	第1土曜	38(5)		70(8)											269(36)
cafeSMILE(映像カフェ)				16(6)		30(0)			36(6)		35(10)	29(0)				
sweets world(洋菓子カフェ)								53(6)								
STEP(10代～20代企画)			56(11)		57(11)		53(5)			58(18)						168(34)
cafeCHAT(STI勉強会)	月1回	第2土曜	24(5)		23(4)		30(1)		30(5)			18(0)				217(37)
cafeCHAT(カフェ)				32(21)		29(2)		32(3)			23(1)					
CAMP(映画カフェ)				28(5)	58(3)				32(2)			46(8)				
global gays(外国籍のゲイ)						69(28)	68(28)									
bar三角関係(アニメ音楽)							29(1)									423(97)
bruit blanc(ロック音楽カフェ)										93(24)						
Salon de Oni(ワインカフェ)		第4土曜	42(5)	58(2)	35(3)	49(4)	28(9)	66(13)	40(1)		21(2)					297(34)
ゲイスタ(新生活応援)	単発企画															171(7)
平凡ボンチ(5/31)	単発企画			33(1)												
収穫祭(8/30)	単発企画	第5土曜	43(2)					51(0)								
cafe Link	単発企画									41(3)						
めがねcafe	単発企画										46(3)					54
ラウンジ波	随時		54(2)	54(2)												
プリンセス・ア・ラ・モード	PLuS+									29(4)						244(58)
CAFÉ MINUS	PLuS+									80						
入江さんトークショー	PLuS+		61(15)							73(54)						
PLuS+打ち上げ	PLuS+									62(0)						
bond lab opening party	展示企画		48(16)									48(16)				48(16)
新規イベント参加者 計				34	32	34	43	23	14	79	40	24				323
イベント参加者 合計				134	330	177	179	231	138	343	218	141				1891

\* 「平均参加者」の内、太線の囲みは新規来場者の多いイベント

【表6：相談件数の推移】(電話相談・別目的での来場後に相談へ移行したものを含む)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2004年度	1件	3件	4件	3件	0件	1件	0件	0件	0件	3件	3件	0件	18件	1.5件
2005年度	2件	2件	0件	4件	1件	5件	1件	1件	1件	1件	0件	1件	19件	1.6件
2006年度	6件	10件	4件	0件	1件	7件	1件	3件	3件	6件	3件	5件	49件	4.0件
2007年度	5件	7件	23件	15件	9件	7件	19件	5件	5件	0件	0件	2件	97件	8.1件
2008年度	19件	10件	19件	18件	20件	19件	21件	32件	18件	23件			199件	19.9件

【表7：相談内容の状況】

2008年	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		
	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	MSM	NMSM	
HIV感染不安				1	1	1	2		1		3									2	
STI感染不安													2					1			
HIV検査に関する相談／報告	1		1		1		1				2							2			
STI検査に関する相談／報告																1		1			
エイズに関する一般的な質問				1							1							1			
HIV陽性者としての生活／制度など							2		1						3						
HIV陽性者支援について					3															1	
相談機関紹介	1						1		1	1	1	1								2	
LGBTコミュニティ、ネットワーク紹介	3	3			1	3														1	
店舗情報紹介			1		1		2		2											2	
パートナーとの関係について							1		1		3				2		1				
家族との関係について							1		1						1					1	
結婚について	1								1		1		1				1			1	
進学・仕事・就職について	1		2		1		4		1		2	1	7		3					3	
金銭問題・経済的な不安／問題	2		2		1		1		1						3		2			1	
将来についての不安									2							2		1			
シニアとしての生活不安	1		1																		
恋愛相談	1						1						2		1		1			1	
精神的不安	1						1		1		2						2			1	
アイデンティティ、カミングアウトについて	1	1			1				1				3		1		1	1	1	3	
薬物使用について									1											1	
薬物依存からの回復について					1	1	1														
医療機関への緊急搬送支援	1																				
口腔ケアについて					1																
研究デザイン・論文等について									3	1					3	9	1	2	2		
医療相談													3								
NPO/CBO組織運営について															2	1				1	
その他	1		1		2						1	1	3								
MSM / NMSM(件)	15	4	8	2	14	5	18	0	18	2	16	3	21		22	10	15	3	19	4	
合計(件)			19		10		19		18		20		19		21		32		18		23

【表8：実施状況】

時期	企画	参加者			参加者の dista 流入			SNS 数
		合計	内訳		合計	内訳		
			step 初参加	参加経験あり		新規来場者	リピーター	
4月	お花見 step	57	30	27	40	25	15	298
5月	café STEP	51	11	40	51	11	40	300
7月	Cafestep	48	10	38	48	10	38	307
7月	海 step	18	5	13	15	3	12	310
7月	G4 for step	5	0	5	5	0	5	313
10月	café step	54	18	36	54	18	36	314
1月	スケート	14	4	10	9	2	7	313
合計		247	78	169	222	69	153	



【表9】

アウトリーチへの参加	18人
SaL+への参加	5人
Café CHAT へ参加	10人
dista コンシェルジュへの参加	2人
Community space dista へ新規来場	67人
PLuS+2008 ボランティア	33人
合計	103人

【表10】

府県	地区	施設分類	1施設あたり平均			店舗数	年間総利用者数(のべ)		
			人/週	人/月	人/年		施設分類別	地区別	府県別
大阪府	堂山地区	サウナ	2500	10000	120000	2	240000	331200	568800
		ヤリ部屋	200	800	9600	6	57600		
		ビデオボックス	150	600	7200	3	21600		
		SMルーム・バー	50	200	2400	5	12000		
	ミナミ地区	ヤリ部屋	200	800	9600	2	19200	28800	
		ビデオボックス	150	600	7200	1	7200		
		SMルーム・バー	50	200	2400	1	2400		
	新世界地区	サウナ	2000	8000	96000	2	192000	204000	
		ヤリ部屋	200	800	9600	1	9600		
		SMルーム・バー	50	200	2400	1	2400		
京橋地区	ビデオボックス	100	400	4800	1	4800	4800		
京都府	京都市	ヤリ部屋	200	800	9600	2	19200	19200	21600
	福知山	ヤリ部屋	50	200	2400	1	2400	2400	
兵庫県	神戸市	サウナ	100	400	4800	1	4800	14400	16800
		ヤリ部屋	100	400	4800	1	4800		
		ビデオボックス	100	400	4800	1	4800		
	姫路市	ヤリ部屋	50	200	2400	1	2400	2400	
3府県	8地区					32店舗	607200人		

## 福岡地域における男性同性間の HIV 感染予防介入研究

研究分担者：山本政弘（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

研究協力者：牧園祐也、川本大輔、北村紀代子、新納利弘、橋口卓、濱田史朗（Love Act Fukuoka）  
 井上緑（独立行政法人国立病院機構九州医療センター）

### 研究要旨

地方都市におけるゲイコミュニティに対する啓発普及のモデルとして、福岡地域のゲイコミュニティに対する啓発普及の試行を行った。昨年度から引き続き、コミュニティセンターを中心とした予防啓発活動として

- ・MSM の層別解析とそれに基づく戦略的啓発の試行と評価
- ・コミュニティ内での連携による総合的な啓発体制の構築
- ・行政との連携強化も含めた他地域とのネットワーク構築

を試みた。また今年度、ゲイコミュニティ内においてバーアンケート調査を行い、研究活動効果の評価を行った。

### A. 研究目的

近年、都市部だけではなく九州地域のような地方においても、感染拡大は留まることを知らないような状況である。福岡にあるブロック拠点病院だけでも平成 20 年、一年間で 50 名近い新患が受診しているが、地方においても、最近の新規感染判明者のほとんどは男性同性間の性交渉によるものであり、男性同性間の性交渉における予防啓発は急務である。

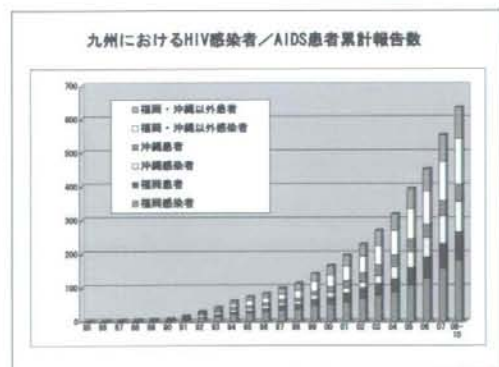


図 1

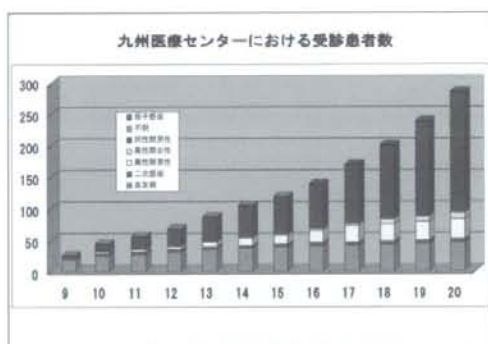


図 2

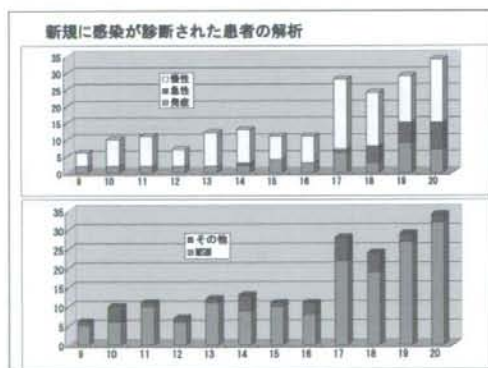


図 3

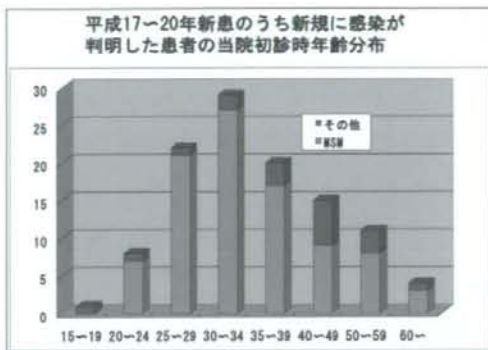


図4

本研究は、地方都市における男性同性間のHIV感染対策とその評価を目的としている。

今年度は特に、

1) MSMの層別解析(コミュニティにおける性行動、知識などの調査研究)

…バー利用者を対象としたバーサーベイの第1回目(ベースライン調査)を実施し、バー利用層の現状を把握。

2) 戦略的啓発の試行と評価

…予防啓発コミュニティセンター「haco」における有効な啓発プログラム、バー利用者のコミュニティセンター誘導プログラム、net層のコミュニティセンター誘導プログラムの開発。

3) 有用性を証明された啓発の継続性の検証として…コンドームアウトリーチ、コミュニティペーパーseasonの配布などの啓発活動の継続。

以上を中心に活動を行なった。

## B. 研究方法

福岡地域のMSMに向けて、以下のことを行った。

1. MSMの層別解析
2. 戦略的啓発の試行と評価
  - 1) 予防啓発コミュニティセンター「haco」における有効な啓発プログラムの開発
  - 2) バー利用者のコミュニティセンター誘導プログラム
  - 3) net層のコミュニティセンター誘導プログラム

3. 有用性を証明された啓発の継続性の検証

- 1) コンドームアウトリーチ
- 2) コミュニティペーパーseason

4. 行政との連携

5. コミュニティ内での協力体制の強化

## C. 研究結果

1. MSMの層別解析(コミュニティにおける性行動、知識などの調査研究…バーサーベイ)

コミュニティ内における性行動、知識などの調査研究として、今年度10月からの一か月間、福岡のゲイコミュニティである住吉、春吉地区にあるゲイバー利用者を対象に、アンケート調査を実施した。

バー全49店舗に協力を依頼し、そのうち29店舗が参加協力を表明。1店舗あたり20部のアンケートを配布し、最終的に約7割である412通の回答が得られた。

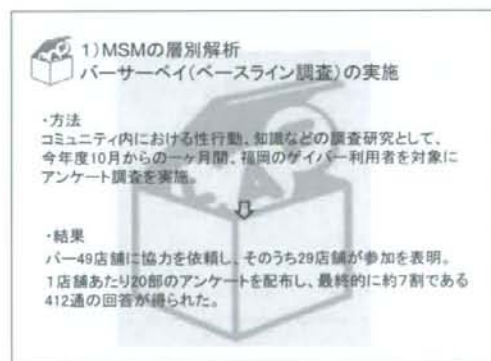


図5

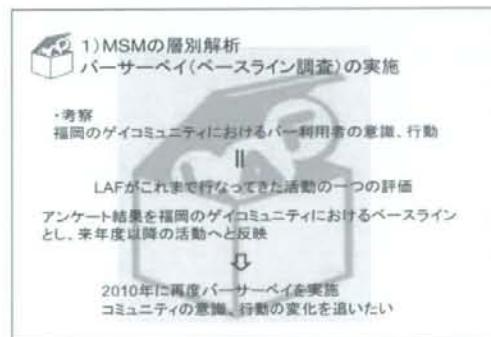


図6

## 2. 戦略的啓発の試行と評価

### 1) 予防啓発コミュニティセンター「haco」における有効な啓発プログラムの開発

平成19年度より、福岡市内のゲイコミュニティ内にコミュニティセンター「haco」を開設。今年度もこのhacoを活用した啓発活動を継続して行い、有効な啓発プログラムの開発を試行した。

昨年度はソーシャルネットワーク研究から得られたデータを元に対象をCBO(LAF)を中心とした層別に分け、それぞれに対する様々な啓発手段を試みた。

第0層…CBO自体。またはCBOに接点があり、予防に関する知識を十分に持ち、予防に対し興味を持っている層

第1層…CBOに接点があり、予防に関する知識を少なからず持ち、予防に対し興味を持っている層

第2層…CBOに接点はあるが、予防に関する知識をあまり持っておらず、予防に対し興味を持っていない層

第3層…コミュニティに接点はあるが、CBOに接点はなく、予防に関する知識をほとんど持っておらず、予防に対し興味を持っていない層

第4層…コミュニティに接点がなく、CBOとの接点もない層 (Hard to reach 層)

今年度は新規スタッフ獲得も目標とし、CBOに接点のある第1層、第2層 (haco 来場頻度の高いクライアント) を主な対象に、元看護師で現AWF代表、LAFスタッフでもある北村紀代子さんによる、初心者を対象としたごく初歩的な勉強会「TALK」を開催した。

「友達からHIV/STIの相談をされたときどうする？」というテーマを元に、実際に相談された時の対応の在り方などを参加者と一緒に話し合いながら考え、同時にLAFスタッフのスキルアップも図った。

開催日	イベント名	来場者数
8月16日	TALK vol.1	4名
9月13日	TALK vol.2	4名
	合計	8名

年度当初の予定にあった、啓発色を強く打ち出した勉強会「Dr. YAMAMOTO の生で聞いてよっ」の開催には至らなかったが、以前からのhaco来場者がTALKへ参加。内2名がその後、アウトリーチやイベントの準備、haco運営の一部に自らの意思で参加。現在に至るまで継続している。

### 2) バー利用者のコミュニティセンター誘導プログラム

今年度は展示会を中心に計画、他にhaco貸しイベントも開催。イベントフライヤーをバー、発展演場各店やイベントなどで配布し、hacoへの集客を図った。



図7



図8



図 9

haco (haco 貸し含む) イベント来場者数

開催日	イベント名	来場者数
4月24日	茶匣(お茶会)	16名(1名)
10月11日	CDTV3(音楽イベント)	49名(7名)
11月29日	映画[RENT]上映会	16名(0名)
1月18日	英会話教室[cozy]vol.1	7名(0名)
2月15日	英会話教室[cozy]vol.2	16名(6名)
	合計	104名(14名)

※()内はイベントにおける初来場者数

展示会

開催期間	展示会	来場者数
7月25日～ 8月17日	競パン写真展	92名(27名)
8月23日～ 9月21日	岩田巖画展	112名(20名)
10月24日～ 11月23日	LONER展 vol.2	142名(10名)
	合計	346名(57名)

※()内は展示期間内における初来場者数

### 3) net 層のコミュニティセンター誘導プログラム：ホームページのリニューアルと haco ブログの開設

主に net 層を対象とした啓発方法として、今年度から LAF ホームページ（以下、HP）をリニューアルし、haco ブログの開設と運用を開始した。

HP では、LAF の啓発活動の紹介や、コミュニティペーパーseason 掲載「Dr YAMAMOTO のちょっと聞いてよっ」の web 版に加え、「Dr YAMAMOTO のつぶやき」という HP オリジナル

のコンテンツを作成。また、他の予防啓発関連団体や情報ページへのリンクを貼るなどし、閲覧者が予防に関する情報に触れ易い環境を整えている。haco ブログでは、主にコミュニティセンターhaco で開催するイベントに関する情報を掲示し、haco への誘導と認知の増加を図った LAF。HP と haco ブログは、サイト内で相互リンクさせており、どちらか一方へのアクセスからでも相互の認知増につながるようにしている。

#### 2) 戦略的啓発の試行と評価 3.net層のコミュニティセンター誘導プログラム

MSMの中には、コミュニティとの接点を持たず、netのみで性的接触の機会を得る層が増えている。これらは当然コミュニティからの情報に接する機会も少なく、アプローチの困難なhard-to-reach層(第4層)とも呼ばれる。この第4層を対象とし、net上での情報提供による介入と、これらの層を直接CBOIに近づけるためのプログラムを計画した。

- ・方法  
今年度からLAF HPをリニューアルし、hacoブログの開設と運用を開始した。

図 10

#### 2) 戦略的啓発の試行と評価 3.net層のコミュニティセンター誘導プログラム

・HP  
LAFの活動紹介や、コミュニティペーパーseason掲載「Dr YAMAMOTOのちょっと聞いてよっ」のweb版に加え、「Dr YAMAMOTOのつぶやき」というHPオリジナルコンテンツを作成。また、他の予防啓発関連団体や情報ページへのリンクを貼るなどし、閲覧者が予防に関する情報に触れ易い環境を整えている。

・hacoブログ  
主にコミュニティセンターhacoで開催するイベントに関する情報を掲示し、hacoへの誘導と認知の増加を図った。

LAF HPとhacoブログは、サイト内で相互リンクさせており、どちらか一方へのアクセスからでも相互の認知増につながるようにしている。

図 11

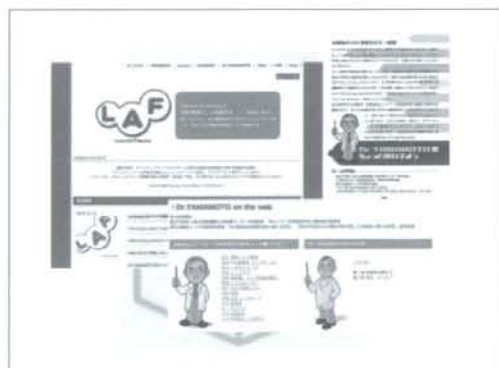


図 12

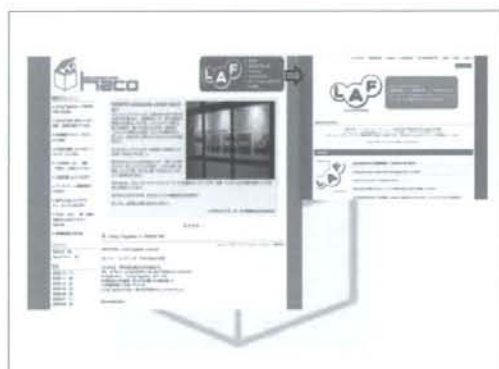


図 13

今年度の haco 来場者数と初来場者数

月	来場者数	初来場者	(昨年度)
4月	87	10	47
5月	104	14	85
6月	84	3	60
7月	74	6	166
8月	143	33	135
9月	80	14	167
10月	173	23	146
11月	119	7	97
12月	95	21	55
1月	57	7	96
計	1016	138	1054

正確な数値化には至っていないが、今年度の haco の新規来場者は、haco イベント情報等を掲示しているポータルサイト「k@toom」を経由した haco ブログ閲覧者、またソーシャルネットワーキングサイト「mixi」内 LAF コミュニティを見て（こちらからも HP、ブログ両方へアクセスできる）の、主にイベント目

的の来場者がその割合の多くを占めた。

また、HP の開設とともに、今まで関わりの少なかった団体などからもリンク依頼があり、広範囲に渡るネットワークを構築することが出来つつある。

ソーシャルネットワーク研究結果から導きだされた「haco」の活動における層別啓発戦略

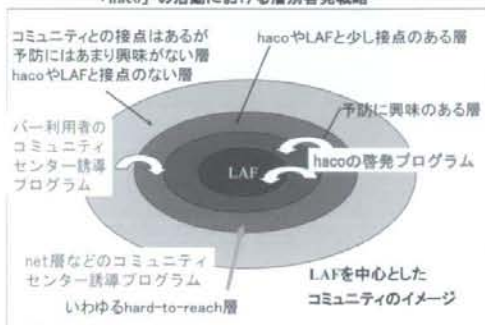


図 14

### 3. 有用性を証明された啓発の継続性の検証

#### 1) コンドームアウトリーチ

福岡のゲイコミュニティにおいて、コンドーム使用率を上げるために必要な環境を作ることを目的とし、平成 16 年度より博多の住吉、春吉と、平成 17 年度より北九州市小倉地区を中心とした MSM 商業施設に対し、コンドームの配布を継続して行っている。

配布に際しては、コミュニティに向けた予防のメッセージを掲載し、独自にデザインしたオリジナルパッケージのコンドームを作成。間接的な啓発と、ピックアップ率の向上を目指している。方法としては、コミュニティセンターhacoを基点とし、2～3 ヶ月に一回程度の配布を実施。

今年度は配布開始を前に、配布開始から 4 年を経過した現状把握の必要性から、各商業施設への実態調査アンケートを行った。

バーに関しては、設置しているコンドームディスペンサーの設置協力の継続意思と、設置場所の確認。発展場とホスト店に関しては、自店でのコンドームの購入、設置の有無（有料か無料かも）の確認を、聴き取りの調査に

より行った。また今年度はバーアウトリーチの際、コンドーム残数と補充数を計数し、コンドーム取得数の動向を計った。

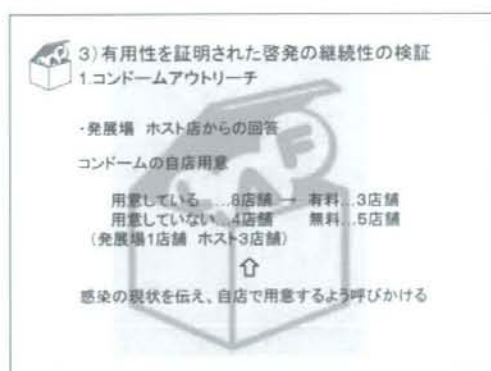


図 15

#### 実態調査アンケート

・バー

ディスペンサーの設置場所

バーカウンター(客席内)	32店舗
トイレ	14店舗

→全店舗設置協力は継続

・ハッテン場 ホスト店

コンドームの自店用意

		有料	無料
用意している	8店舗	3店舗	5店舗
用意していない	4店舗	5店舗	

#### コンドーム配布数

	地域	日にち	配布数
第1回	博多	3月2日	1439 個
第2回	博多	6月8日	2286 個
第3回	小倉	6月28日	1050 個
第4回	博多	7月27日	1459 個
第5回	博多	8月31日	1668 個
第6回	博多	11月9日	2165 個
第7回	小倉	12月3日	656 個
		合計	10723 個

※店舗別計数一覧は別途資料を参照

#### 2) コミュニティペーパーseason

以前より、MSM 予防啓発におけるコミュニティペーパーの有効性は実証されている。今年度もコンドームアウトリーチと並行したMSM 商業施設への配布を行うとともに、season 以外の活動との連携による相乗効果

を図った。また今年度5月発刊号より、seasonのリニューアルを実施。巻末店舗 index に、バー、発展場各店別にタイプや年代を掲載し、より一層情報誌としての役割を持たせ、ビックアップ率向上を図った。

今年度発行部数 #14~16部 各3,000部



図 16

#### 4. 行政との連携

ゲイ男性だけではない、バイセクシャル男性も含まれるMSMという対象は、ゲイコミュニティのみに特化した啓発活動だけでは不十分であり、特に層別解析でも述べたHard to reach 層を意識すると、広く一般社会に向けたアプローチは必要であると言える。

今年度は昨年度より引き続き、地元行政との共同として福岡県、福岡市のエイズデーイベントの企画立案に参加。11月29日にファッションビルIMZにて開催されたLove FM「AIR-STAGE 世界エイズデー福岡」において、福岡のHIVに関わる団体として、AWF(エイズワーカーズ福岡)とともに出演。HIVマップの紹介などを行い、予防とケアに関する情報の提供とともに団体の認知増を図った。

また今年度は、エイズ予防財団主催による九州医療センターでの研修会において、地元MSM 当事者予防啓発団体として講師出演。九州の医療関係者をはじめ、他県のHIV 関連団体との接点も持つことができた。

## 5. コミュニティ内での協力体制の強化

一度に多数の人数を集客することのできるイベントは、同じく一度に多数のMSMに予防の情報を流布させることのできる絶好の機会である。しかし、自らでイベントを立ち上げ開催するには多大な労力、マンパワーが必要となり、容易ではない。そこで、既存イベントの中での予防情報の提供を考え、コミュニティ内のイベントオーガナイザー4名(BIG FACE、Sound Summit、博多RIOTより)とLAFによる共同体、「Love Tribe Fukuoka(以下LTF)」を組織した。

「福岡のセクシャルマイノリティコミュニティの総合的な活性化と、HIV/STIの予防啓発」を目的とし、LAF及び各イベント間での相互の協力関係を構築するとともに、ゲイバー、レズビアンバー、ハッテン場などとの協同によるイベントの開催、及びそのイベント内での予防啓発活動を行っていく。LTF第一回目の動きとして、2009年5月のゴールデンウィーク期間中に連続したイベントの開催を行う予定である。

## D. 考察

### 1. MSMの層別解析(コミュニティにおける性行動、知識などの調査研究…バーサーベイ)

アンケート結果により、福岡のゲイコミュニティにおけるバー利用者の意識、行動のおおまかな把握が出来た。これはそのまま、LAFがこれまで行ってきた活動の一つの評価とすることができる。

今回のアンケート結果を福岡のゲイコミュニティにおけるベースラインとし、来年度以降の活動へと反映させ、2010年に再度バーサーベイを実施。コミュニティの意識、行動の変化を迫りたい。

### 2. 戦略的啓発の試行と評価

#### 1) 予防啓発コミュニティセンター「haco」における有効な啓発プログラムの開発

haco来場者は、既にある程度の社会的立場を持った20代～30代以上の社会人が多い。最初から「LAFという団体のスタッフになる」というはっきりとした意思を持っての参加を得ることは、発生する職務に対する責任を考慮してか、なかなか難しい。

だがこういった、自分に出来る範囲のボランティアとしての立場での関わりを持ってくれる人物は貴重であり、継続した関わりを持つ中で正式なスタッフへの意思変容が期待できる。つまり、第2層から第1層へ、そして第0層へと自らの意思で変容することとなる。そういった「きっかけ作り」の意味で、hacoという場所でのこのように身近な、初心者に向けた参加し易い勉強会の開催は、極めて効果的であると言える。

#### 2) バー利用者のコミュニティセンター誘導プログラム

イベント、展示会の開催期間中における来場者数は、展示会を行っていない通常の約1.4倍～1.8倍ほどであり、初来場者数もそれに比例している。

誰もが「一度も足を踏み入れたことのない場所」には抵抗感があるものであり、コミュニティセンターのような既成概念にないものに対してはなおさらである。また単純に「HIV/STI情報の提供」という名目だけで来場者を得ることは難しい(基本的に、クライアント全てが最初からHIV/STIに対し強い興味を持っているわけではない)。その抵抗感を一層の興味にすり替え来場を促す手段として、イベント、展示会などは極めて有効な手段である。また、開催時における外部協力者との協働も、コミュニティ内での協力体制の強化につながるという意味で特筆しておきたい。

#### 3) net層のコミュニティセンター誘導プログラム:ホームページリニューアルとhacoブログの開設



加速する情報化社会において、SNS や出会い系サイトなど、誰でも気軽に匿名で性交渉を得ることのできるネットは、表面上安易かつオープンでありながら、実態が明らかに見えにくい、という危険なアンダーグラウンド性をもっており、早急に予防の情報を行き届かせる必要がある。

今年度内での実現には至らなかったが、来年度は携帯でも閲覧可能な HP とブログを開設し、引き続き net 層を中心としたアプローチを行ないながら、コミュニティペーパー season など他の活動とも連動させ、総合的なコミュニティアプローチへと展開させる予定である。

### 3. 有用性を証明された啓発の継続性の検証

#### 1) コンドームアウトリーチ

実態調査アンケートを行った結果、バーからは、今年度以降も継続したコンドームディスプレイの設置協力の確認を得ることができた。また、コンドーム取得数の動向と併せて分析したところ、ディスプレイをトイレに設置している店舗の方が、コンドームの残数が少ないという傾向が見られた。発展場とホスト店の調査では、自店でコンドームを用意していない店舗が、発展場で1店舗、ホスト店で3店舗あり、いずれも LAF が配布しているコンドームに依存している状態ということが明らかとなった。

コンドームアクセスに関しては、今回の実態調査アンケートと、今年度行った携帯アンケート調査、バーアンケート調査の結果とを併せて効果評価を行い、今後の展開方法を検討する予定である。

また今年度は、LAF に代わり小倉での自主的な配布活動を行ってくれる協力者が出現、さらに活動に積極的な協力姿勢を示すゲイバーのマスターも現れ、小倉での活動基盤が整いつつある。

#### 2) コミュニティペーパー season

season はコンドームのような配布、取得数の集計などを行っていないため具体的な数字として表わすことはできないが、巻末 index のリニューアル後はそれ以前と比較すると、配布店舗より追加補充を望む声が多く寄せられるようになった。

### 4. 行政との連携

今回、MSM 当事者団体として一般に向けた FM 放送に出演したことにより、MSM や Hard to reach 層へのアプローチにつながった。行政側は、一般市民の中には MSM が確実に存在することを認識し、またそれが特別なことではないことを理解した上で、これからの行政としての在り方、予防啓発を考えていかなければならない。現実はずでに、その段階に来ている。

また財団主催による研修会をきっかけに、アウトリーチを行っている北九州小倉の行政関係者が haco に見学来場。LAF との関係を作ることができた。ゆくゆくは今年度現れた小倉での協力者と繋げ、小倉独自の予防啓発活動の展開へと結びつける予定である。

また今年度は他に、熊本県、山口県などの行政関係者も haco に見学来場。今後も積極的に関係を持ち、九州内でのさらなる協力体制の構築を進めていく。

### 5. コミュニティ内での協力体制の強化

各イベントオーガナイザーの理解を得ることができ、今後それぞれ客層の異なるイベントの中で予防情報の提供を行っていくための協力体制が整った。

今年度はまだ組織化に至っているだけであるが、今後この効果を検証していく予定である。

今回のイベントオーガナイザーとの連携には、「MSM の自尊心」へのアプローチが目的としてある。

セクシャルマイノリティは、未だに社会的には被差別の対象として存在する。全国的なアンケート結果などを見ても、MSM 男性は社会に対し自身のセクシャリティをネガティブにとらえ、そのストレスをアンセーフなセックスの欲求へと向ける傾向が見られる。これは、異性愛男性と比べた、その鬱発症率や自殺率の高さと併せ、今以上に深く解析されるべき性感染症問題とは別の社会問題の一つである。

では自尊感情の向上、自己肯定を促すにはどうしたらよいか。それは、これまでの社会的な否定感を上回る自己肯定の感情を得るしか、方法はない。MSM 男性だけではなく、レズビアン女性も巻き込んだセクシャルマイノリティの総合的な活性化は、MSM に対しマイノリティであることを肯定的にとらえるきっかけを与えるためのものであり、その中に予防の情報で介入することは、同じく MSM のアンセーフなセックスへの衝動を変容させる機会になり得ると考えられる。

## E. 結語

昨年度実施した携帯アンケート調査、そして今年度実施したバーサーベイ調査により、LAF はこれまで行ってきた活動の一旦の評価を得ることとなる。これは、地方 MSM コミュニティの現状、そのひとつの側面を表した貴重なデータであり、これを元に、LAF は今後の活動指標を定める予定である。

福岡のコミュニティセンター「haco」開設から約2年が経過しようとしている。今年度、他地域のコミュニティセンターを訪れたことのある県外者の haco 来場が多数あった。これは、それぞれの地域で運営されるセンターが、気軽に立ち寄ることのできる「Drop in」センターとしての機能を果たしている証明であり、こういったセンターが HIV/STI 予防情報提供の場として各地域に存在していることの意味は、非常に大きい。クライアントは常に流動

しており、その中で情報は人から人へと伝えられていく。今後は、各センター間でのさらなる有機的な連携が重要な課題であると考えられる。

一方で、数年に渡る地方コミュニティへの啓発活動から見えるのは、やはり少数しかいないボランティアだけでアプローチできる範囲には限界がある、という現実である。地方の小 MSM コミュニティとはいえ、その中身は年齢や趣向などにより細分化されており、それらすべてに対しボランティアだけで継続したアプローチを行うことは不可能である。今後さらに必要とされる MSM 予防啓発対策の推進のためには、専従職員などの人件費を含めた資金面における国および地方自治体のさらなる参加支援が必要不可欠であり、場合によっては公益法人化などによる公共事業として推進していく必要性も考えられ、行政における今後の責任は非常に大きい。

さらに性行動開始の低年齢化などにより、同性間の性感染症とその予防に関する知識も、やはり義務教育として学校教育の中で伝えていく必要性も高まってきている。それらの MSM 予防啓発対策の推進が結果として、社会全体を HIV/STI の脅威から守る何よりの手段と考えられる。また早晩崩壊が危惧される地方の医療にとってもこれ以上の患者増加に対処することは困難となっており、早急にさらなる MSM 予防啓発対策の推進が望まれる。

## F. 発表論文等

(英文)

Minami R, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E, and Yamamoto M: Human herpesvirus 8 DNA load in the leukocytes correlates with thrombocytopenia in HIV-1 infected individuals. *AIDS Res Hum Retroviruses*. (in press)

(和文)

吉川博政, 田上正, 山口泰, 玉城廣保, 樋口勝

規, 山本政弘: HIV 感染者における歯科医療連携に関する研究. 日本エイズ学会誌 10(1): 41-49, 2008.

口頭発表  
(海外)

1. Minami R, Takahama S, Ando H, Yamamoto M: High molecular weight form of adiponectin in antiretroviral drug-induced dyslipidemia based on in vivo and in vitro analyses. XVII International AIDS Conference, 3-8 August, 2008, Mexico City.

2. Nakasone T, Hara T, Naganawa S, Takamatsu J, Kaizu M, Takizawa M, Ohsu T, Kawahara M, Izumi Y, Yoshino N, Yamada K, Nagai Y, and Honda M: Biological and genetic analysis of HIV-1 in Japan: 12 years observation. The 13th International AIDS Conference, July 9-14, 2000, Durban, South Africa.

(国内)

1. 安藤仁、南留美、高濱宗一郎、山本政弘: サルモネラ菌血症による感染性腹部大動脈瘤を合併した HIV 感染症の 1 例. 第 82 回日本感染症学会学術総会、平成 20 年 4 月 17-18 日、島根。

2. 阪木淳子、辻麻理子、長与由紀子、井上緑、米山朋子、首藤美奈子、山本政弘: 自治体派遣カウンセラーの活用拡大に関する研究—HIV 検査相談研修会の実践からの考察—、第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、平成 20 年 11 月 27 日、大阪。

3. 長与由紀子、城崎真弓、辻麻理子、本松由紀、首藤美奈子、安藤仁、南留美、山本政弘: 社会的背景の複雑な患者の退院調整を振り返って—発達遅滞の患者の一事例を通して—、第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、平成 20 年 11 月 27 日、大阪。

4. 前田憲昭、溝辺潤子、吉川博政、山本政弘、健山正男、砂川元、新垣敏一、中川裕美子:

沖縄県における歯科医療体制構築に関する活動報告. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、平成 20 年 11 月 27 日、大阪。

5. 南留美、高濱宗一郎、安藤仁、山本政弘: 抗 HIV 剤の肝細胞、HCV 感染肝細胞における脂質代謝への影響. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、平成 20 年 11 月 28 日、大阪。

6. 高濱宗一郎、南留美、安藤仁、山本政弘: プロテアーゼ阻害剤が骨代謝に及ぼす影響. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、平成 20 年 11 月 27 日、大阪。

7. 藤野真之、湯永博之、吉田繁、千葉仁志、伊藤俊博、浅黄司、松田昌和、岡慎一、近藤麻理子、今井光信、貞升健志、長島真美、伊部史朗、金田次春、濱口元洋、上田幹夫、正兼亜希、大塚正義、渡辺香奈子、白阪琢磨、森治代、小島洋子、中桐逸博、高田昇、木村昭朗、南留美、山本政弘、健山正男、藤田次郎、杉浦互: 2003-2007 年の新規 HIV-1 感染者における薬剤耐性頻度の動向. 第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会、平成 20 年 11 月 27 日、大阪。

## 沖縄地域における男性同性間の HIV 感染予防介入研究

研究分担者: 健山正男 (琉球大学大学院医学研究科感染病態制御学講座 分子病態感染症学分野)  
研究協力者: 日比谷健司 (琉球大学大学院医学研究科感染病態制御学講座 分子病態感染症学分野)、  
富川桂子 (同看護部)、仲村秀太、田里大輔、原永修作、比嘉 太、藤田次郎 (琉球大学大学院医学研究科感染病態制御学講座 分子病態感染症学分野)、宮城京子 (同看護部)、仲宗根正 (沖縄県中央保健所)

### 研究要旨

**目的:** 沖縄県における直近の3年間では HIV 感染経路の83%を占める男性同性愛者 (以下: MSM) のみを対象とした日曜日 HIV スクリーニング検査を2009年2月に毎週4回実施し、無症状のキャリアを早期発見して医療機関につなぐことを目的とした。副目的として個別施策層における検査回避の要因をアンケート調査してその改善策を検討した。

**研究方法:** 沖縄県内の MSM を対象に、日曜検査会場を設営し、HIV および HIV 以外の性感染症の浸淫度を調査した。検査前のアンケート調査により、検査環境を改善した様々な施策を実施し、どの施策が最も検査受検率の向上に有用かを受験者へのアンケートにより検証した。

**結果:** 本県で初めて実施された MSM のみを対象とした HIV 検査の日曜実施は、過去の検査実績から年間の半数に相当する68人の受検者が1ヶ月間で参加した。STD 検査の無料実施および MSM のみに特化した検査会の開催が受検動機の最多の回答数を得た。

**考察:** MSM の HIV 検査受検率の向上は MSM のみがアクセスする媒体、当事者による口コミ広報、検査環境の整備 (ニーズの把握) の3条件が有機的に組み合わさって達成されたものと推定された。

**結語:** ニーズにあった検査環境の整備と広報により MSM の HIV 検査受検率の改善は可能である。

### A. 研究目的

沖縄県における HIV 感染者の増加は1999年より顕著となり、2007年の人口10万人あたりの新規感染者は2.58人と全国で2番目に高い陽性率となった。また2008年度も3位であり、その83%を MSM が占める。2006年度に研究協力者 (富川) が実施した中央保健所での性指向別の感染率では MSM は3.7%ときわめて高いことが明らかとなった。2007年は本県は前年度に比して新規感染者報告数は2.2倍と増加し、感染経路の調査が信頼できる当院の成績では90%が MSM であり、単純計算で2倍以上の増加となっている。AIDS の届出は

全体の30%であるものの、治療開始基準となる CD4 数が350未満が全体の83%であり、HIV と行政的に区分けされても病期が進行して発見される例が多いことが判明した。

以上より、沖縄県における HIV 感染の増大は大部分が MSM 間で起きており、病期の進行した症例が83%を占めていることが明らかとなり、MSM における検査受検率を現状よりも高めて、感染者を速やかに医療機関へとつなぐことが喫急の課題と言える。さらにこれらの個別施策層における検査回避の要因を明らかにすることも求められる。

これらの背景から、今回は沖縄県内の MSM